人間関係研究（南山大学人間関係研究センター紀要）, 13, 231-255.

■　資料

日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2013）

坂　中　正　義
（南山大学人文学部心理人間学科）

要約

本論文は、2013年に発表された、わが国における「来談者中心療法」関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、体験過程療法、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「体験過程療法・フォーカシング」「その他」ごとに、A. 書籍、B. 研究論文、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、体験過程療法、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、文献リスト

はじめに

筆者は、わが国における「来談者中心療法」の研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の１つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集―　九州大学心理臨床研究, 17, 113-121.
2．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（～1969）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
3．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に

関する文献リスト（1970～1974）　福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
4．坂中正義　1998　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979）　福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
5．坂中正義　1999　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984）　福岡教育大学紀要（教職科編）,48, 195-214.
6．坂中正義　1999　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989）　福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
7．坂中正義　1999　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994）　福岡教育大学「心理教育相談研究」,3, 13-51.
8．坂中正義　2000　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999）　福岡教育大学「心理教育相談研究」,4, 13-55.
9．坂中正義　2001　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
10. 坂中正義　2002　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅰ部:来談者中心療法—　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
11. 坂中正義　2002　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他—　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
12. 坂中正義　2003　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
13. 坂中正義　2004　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
14. 坂中正義　2005　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
15. 坂中正義　2006　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
16. 坂中正義　2007　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
17. 坂中正義　2008　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
18. 坂中正義　2009　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2008）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.
19. 坂中正義　2010　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2009）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
20. 坂中正義　2011　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2010）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.

21. 坂中正義　2012　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2011）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義　2013　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2012）　福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.

本論文では、これらの論文の続編として、2013年の日本における「来談者中心療法」関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

方法

2013年に発行された「来談者中心療法」関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、体験過程療法、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「体験過程療法」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A.書籍、B.研究論文[1]、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2013年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

[1] 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

第Ⅰ部：来談者中心療法

「第Ⅰ部：来談者中心療法」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法といった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的配慮」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2013年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は18本であった。「C.学会発表」は12本であった。そのうち4つのシンポジウムがあった。「D.翻訳」は２本で、単行本であった。「E.海外文献紹介」は1本であった。「F.書評」は1本であった。

2013年の「来談者中心療法」の特徴は、Rogersの中核条件についてのB-9、Burryの書籍の翻訳であるD-1が刊行されたことであろう。

B-9は、中田行重氏によるRogersの中核3条件についての論考である。特に共感的理解を中心に、その実現に向けて、セラピストの内的体験を軸に検討されている。中核3条件を如何に実現するかを具体的に示した意欲的、かつ貴重な文献である。

D-1は、この領域の貴重なビデオ資料である「グロリアと3人のセラピスト」のクライエントであったグロリアの娘であるBurryによる、その後のグロリアの歩みを綴った書籍である。このビデオはこれまで多くのカウンセリング学習者に視聴されてきた。しかし、学習者は、ビデオに収められたことのみしか知り得ることはできず、その関心はどちらかというとカウンセリングの具体的な対応や技法に向いていたといえよう。しかし、この書籍により、グロリア自身にとっての面接の意味というこれまであまり光の当たらなかった視点から検討しなおすことが可能になった。その意味で、貴重な資料といえよう。

なお、2013年は「心理臨床学研究」に関連文献が1本（B-9）掲載されている。

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．傳田容示子　2013　近づいて来られるような…　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 68, 8.
2．畠瀬直子　2013　日本人とカウンセリング（1）―カウンセリングがやってきた―　関西人間関係研究センター紀要, 5, 14-21.
3．畠瀬直子　2013　パーソンセンタード・アプローチの源流　関西人間関係研究センター紀要, 5, 22-32.
4．兵頭孝子　2013　クライエント中心療法と第三世代の認知行動療法　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 68, 16-17
5．飯島喜一郎　2013　２回の研究会に参加して思うこと　セルフ《自立》カウ

ンセリング研究所所報「白樺」, 69, 2.
6．金原俊輔　2013　カール・ロジャーズの生涯　長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要 11(1), 21-51
7．慶 こずえ　2013　ことばのパワー　日本グロースセンター「グロース」,　145.
8．村山正治　2013　講演：C.R.ロジャーズの現代的意味と価値　東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 12(1), 3-20.
9．中田行重　2013　Rogersの中核条件に向けてのセラピストの内的努力　心理臨床学研究, 30(6）, 865-876.
10. 中田行重　2013　ストラスクライド大学におけるカウンセリングのディプロマコース―臨床心理士教育への示唆―　関西大学心理臨床カウンセリングルーム紀要, 4, 51-58.
11. 中田行重：斧原 藍・大川 慧・岸 あかね・白崎愛理・中西達也　2013　古典的クライエントセンタード・セラピーの考える共感的理解～Bozarthの論文（1997）の要訳と考察～　関西大学心理臨床カウンセリングルーム紀要, 4, 37-44.
12. 西野秀一郎　2013　はじめまして。どうぞよろしくお願い致します。　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 69, 8-9.
13. 岡村達也　2013　Empathic Understandingの起源　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 68, 2-7.
14. 尾﨑かほる　2013　教育の一環としての学生相談　日本女子大学カウンセリング・センター報告「大学教育とカウンセリング」、36, 8-22.
15. 桜井育子　2013　人は人によりてのみ―その５―４回連載のふりかえり―　日本女子大学カウンセリング・センター報告「大学教育とカウンセリング」, 36, 23-38.
16. 白水 信　2013　膝突き合わせてきました―共に考え創造する時間の楽しさ―　日本人間性心理学会ニューズレター, 77, 2.
17. 庄田節子　2013　カウンセリングに出会って　関西人間関係研究センター紀要, 5, 12-13.
18. 高橋大樹　2013　国際学会に参加して感じたこと　日本人間性心理学会ニューズレター, 77, 2.

C.学会発表

1．畠瀬直子　2013　氷の床～人間性心理学の真価をたずねて～　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 28-29.
2．泉野淳子　2013 「必要十分条件」論文（C.R.Rogers, 1957）の再々検討（その４）～ロジャーズはアメリカのニーチェである～　日本心理学会第77回大会プログラム , 75.
3．木村太一　2013　母親の葛藤に寄りそうスクールカウンセラーの在り方―フォローアップ面接による体験の振り返りを通して―　日本人間性心理学会

第32回大会プログラム・発表論文集, 68-69.
4．永野浩二　2013　関係におけるdoing体験とpresence体験　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 152-153.
5．中田行重　2013　わが国のパーソン・センタード・セラピーの立場として取り組むべきこと　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 150-151.
6．日本心理臨床学会（第32回秋季大会）　2013　大会シンポジウム発表　日本心理臨床学会第32回秋季大会プログラム , 48.
司会者（飯長喜一郎）
共感的理解（Rogers, 1957）のためにセラピストは何をするのか―reflectionではない内的努力―（中田行重）
臨床場面におけるセラピストの内的作業としての「自己一致」（大石英史）
指定討論者（村山正治）
7．日本心理臨床学会（第32回秋季大会）　2013　自主シンポジウム：私にとってのPCA（パーソン・センタード・アプローチ）、CCT（クライエント・センタード・セラピー）　日本心理臨床学会第29回秋季大会プログラム , 118.
企画・司会者（飯長喜一郎）
話題提供者（飯長喜一郎・下田節生・無藤清子・園田雅代・岡村達也）
8．日本人間性心理学会（第32回）　2013　自主企画：「グロリアと3人のセラピスト」を考える―「グロリアと3人のセラピスト」とともに生きて：娘による追想―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 48-49.
企画者（末武康弘・堀尾直美）
司会者（堀尾直美）
話題提供者（末武康弘・堀尾直美・青葉里知子）
指定討論者（高野雅司）
9．日本人間性心理学会（第32回）　2013　自主企画：パーソンセンタード・セラピーの傾聴によりクライアントに起こる動き　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 52-53.
企画者（中田行重）
話題提供者（森川友子・大石英史・村山尚子・永野浩二）
指定討論者（村山正治）
10. 白井祐浩・北田朋子　2013　セラピストの個性を伸ばすトレーニングの試み―セラピスト・センタード・トレーニングの考えと実践―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 66-67.
11. 田中寿夫　2013　試行カウンセリング場面におけるクライエントの主観的被共感体験に関するプロセス研究　日本心理臨床学会第32回秋季大会プログラム , 68.
12. 田中秀男　2013 「一致」という用語にまつまる問題点と、ジェンドリンによ

る解決案について　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 118-119.

D.翻訳

1．Burry, Pamela J.　2008 Living with 'The Gloria Films'. Ross-On-Wye: PCCS Books.（末武康弘 監修 青葉里知子・堀尾直美共訳　2013「グロリアと三人のセラピスト」とともに生きて―娘による追想― コスモス・ライブラリー）

第１章 教会と「セックスの本」―よい少女―悪い少女
第２章 リッツ・クラッカーと脚―ケネディ死去
第３章「あなたにはセラピーが必要よ」―あの映画
第４章『三人のセラピスト』―「やつらを訴えろ！」
第５章『グロリアの映画』を乗り越えて―エサレンのフリッツ
第６章 ふたりの父親―旅
第７章「『待って！』と伝えて」―スキップ
第８章 カール・ロジャーズを捜して―お米の上にひざまずく
第９章 ジョン・シュリーンと私の出会い―禅の修行
第10章 グロリアの死―「これはあなたの仕事よ」
エピローグ「見たことは半分だけ信じて、聞いたことは無視せよ」
監修者による解説と資料

E.海外文献紹介

1．有山英子　2013　プラウティの体験：Prouty, G., Van Werde, D., & Portner, M.(2002) Pre-Thetapy: Teaching Contact-Impaired Clients. Ross-on-Wye, PCC Books.　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 69, 4-7.

F.書評

1．野村晴夫　2013「Cooper, M.（清水幹夫・末武康弘監訳）2012『エビデンスにもとづくカウンセリングの効果の研究―クライアントにとって何が最も役に立つのか―』岩崎学術出版社」学術通信, 103, 10.

2．田畑 治　2013「Cooper, M.（清水幹夫・末武康弘監訳), 2012『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究―クライアントにとって何が最も役に立つのか―』岩崎学術出版社」人間性心理学研究, 30(1･2), 65-67.

付：同リスト（～2012）「第Ⅰ部：来談者中心療法」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．青木省三・和迩大樹・三浦恭子　2010　クライエント中心療法のエッセンスを診療に生かす (特集 精神療法のエッセンスを診療に生かす)　臨床精神医学 39(1), アークメディア, 5-11.

2．藤野和子　2009　亀山山荘さんありがとう　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 64-65.

3．深谷美希　2011　来談者中心療法を用いたメール相談事例　日本放射線カウンセリング学会誌, 8(1), 24-30.

4．古屋健治　2009　堀 淑昭先生への追悼―そして友田不二男先生との交流、および『ロジャーズ全集』の編集などをめぐる回想―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 66-69.

5．平河内健治　1993　信川先生とのワークショップ　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 38-41.

6．平河内健治　2009　ご挨拶　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 1-2.

7．平野正敏　2004　なんらかの接触をつづけてゆく過程―受容・共感は、カウンセラーの態度ではなく、カウンセラーの経験―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 58-63.

8．鮒田新世　2004　北海道カウンセリングフォーラム大好き！　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 18-24.

9．岩田千香　2009　感謝感謝です！　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 59-62.

10. 地主明弘　2012　来談者中心療法　日本放射線カウンセリング学会誌, 9(1), 8-21.

11. 笠井康人　2009　虚なるは心齊なり　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 4-9.

12. 加藤泰久　2009　出会いとやさしさの実践　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 30-34.

13. 工藤和仁　2004　私とカウンセリング　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 40-53.

14. 宮嵜いつみ　2004　私の中の“先賢”を探して…　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 53-57.

15. 宮下武二郎　2009　平野先生の思い出　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 55-57.

16. 森口修三　2009　産業臨床心理学入門―産業心理臨床の理論と技法（第２

回）来談者中心療法　産業看護, 1(2), メディカ出版, 152-156.
17. 長屋成明　2004　私の体験記―「カウンセラー」「人」として育つことを目指して　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 34-39.
18. 中島弘徳　2010　アドラー心理学を理解するための、臨床心理学の基礎の基礎（３）来談者中心療法　アドレリアン 23(3), 236-239.
19. 小田桐真理　2009　カウンセラーの態度　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 15-21.
20. 斎藤洋子　1993　えっ？ あっ！　わかったァ！！―私の体験したこと―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 18-31.
21. 桜井育子　2010　人は人によりてのみ・その２―臨床の日々―　日本女子大学カウンセリング・センター報告「大学教育とカウンセリング」, 33.
22. 桜井育子　2012　人は人によりてのみ・その４―生命の発露―　日本女子大学カウンセリング・センター報告「大学教育とカウンセリング」, 35.
23. 志賀信子　2009　平野先生との出会い　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 62-64.
24. 清水幹夫　2012　スコットランドにおけるPCAの発展とMick Cooper　学術通信, 岩崎学術出版社, 101, 5-7.
25. 清水紀子　2009　また会える時まで　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 52-55.
26. 鈴木喜代三　1993　前座ばなし　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 4-7
27. 鈴木喜代三　2004　ヒザを交えた接触（話し合い）に向けて　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 64-68.
28. 高橋幸夫　1993　援助者の姿勢　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 33-37.
29. 高橋幸夫　2004　カウンセラーの軌跡　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 4-12.
30. 高橋悦子　2009　平野先生に寄せて～マイブログに掲載した文章より～　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 57-59.
31. 高森淳一　2010　制御-克服理論からみた来談者中心療法の一事例　天理大学学報 61(2), 21-48.
32. 高尾龍雄　2011　重度認知症者への心理療法の試み―身体からの来談者中心療法の視点から―心身医学　51(6), 544.
33. 友久久雄　2008　ロジャースと非指示的療法―三つの疑問から　龍谷大学教育学会紀要, 7, 1-15.
34. 友田不二男　1993　ご挨拶　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 1-2.
35. 津内口恵子　2003 「教材を用いた学習会」所感　日本カウンセリングセン

ター「カウンセリング研究」, 20, 59-68.

36. 渡辺 隆　2004　教えたがりの私から、「人」の成長に本心から関われるようになる私へ―相談室登校から学級へ戻っていったA子との関わりを通して―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 12-18.
37. 柳川 実　2004　回想　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 21, 30-33.
38. 八城泰光　2009　逐語検討会から感じたこと思ったこと　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 10-14.

C.学会発表

1．高尾龍雄　2011　重度認知症者への心理療法の試み―身体からの来談者中心療法の視点から―　日本心身医会第52回総会プログラム

D.翻訳

1．Rogers, C.R.　1977　拓殖明子教授に贈ることば　人間研究, 13, 39-40
2．Rogers, C. R., & Polanyi, M.（諸富祥彦訳）2012　翻訳 カール・ロジャーズとマイケル・ポランニーの対話　トランスパーソナル学研究, 12, 67-86.

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

1．野島一彦　2012　臨床家のためのこの1冊(67)『カール・ロジャーズ：静かなる革命』(カール・R・ロジャーズ+デイビッド・E・ラッセル/畠瀬直子訳) be well worth reading : Carl R. Rogers & David Russel, Carl Rogers : The Quiet Revolutionary　臨床心理学 12 (4), 金剛出版 , 606-609.
2．野村晴夫　2012「Cooper, M.（清水幹夫・末武康弘監訳）, 2012『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究―クライアントにとって何が最も役に立つのか―』岩崎学術出版社」臨床心理学, 12 (4).

第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチなどの来談者中心のオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した[2]。

2013年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は7本であった。「C.学会発表」は11本であった。そのうち1つがシンポジウムであった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2013年における「ベーシック・エンカウンター・グループ」の特徴は、ファシリテーター体験を語り合う集いであるC-4の抄録が刊行されたことであろう。

C-1は、日本性心理学会第32回大会の自主企画である。話題提供者はエンカウンター・グループのファシリテーターが中心であるが、それぞれのファシリテーターとして大事にしていることをシェアする貴重な機会となった。エンカウンター・グループに限らず、集中的グループ経験を担当するファシリテーターが、どのようなことを心がけ、グループに望んでいるのかを対話する場を持つことは、今後のエンカウンター・グループの発展のためには重要な意味を持つと思われる。

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．原田美香　2013　エンカウンター・グループ初めての経験　日本グロースセンター「グロース」, 145.
2．野島一彦　2013　大学院におけるエンカウンター・グループ・ファシリテーター養成プログラム　跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 1, 43-51.
3．野島一彦・坂中正義　2013　わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト（2011）　九州大学総合臨床心理研究, 4, 143-162.
4．野島一彦・坂中正義　2013　わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト（2012）　跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 9, 3-18.
5．田村隼人　2013　ベーシックエンカウンターグループ感想　日本グロースセンター「グロース」, 145.
6．角屋恵子　2013　ベーシックEGに参加して　日本グロースセンター「グ

[2] なお、体験過程療法に特化したグループ・カウンセリングは、第Ⅲ部へ収録されている。

ロース」, 145.

7. 貫井京子　2013　グロースセンターと私　日本グロースセンター「グロース」, 145.

C.学会発表

1. 相原 誠　2013　大学生におけるPCAグループ体験の意味―PCA的所属感の高低に注目した検討―　日本カウンセリング学会第46回大会プログラム, 42.
2. 金子周平　2013　看護学生がワークへの参加の仕方を選択するエンカウンター・グループ―安全感と気づきのファシリテーション―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 134-135.
3. 金子周平　2013　葛藤によって開かれるファシリテーション　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 57.
4. 日本人間性心理学会（第32回）　2013　自主企画:グループ・ファシリテーター体験を語り合う集い　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 56-57.
   企画者（野島一彦）
   題提供者（岡村達也・坂中正義・高橋紀子・金子周平）
5. 野島一彦　2013　大学院におけるエンカウンター・グループ・ファシリテーター養成プログラム　日本集団精神療法学会第30回大会抄録集, 22.
6. 岡村達也　2013　15年ぶりのEG―RogersとLieberman, Yalom & Miles―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 56.
7. 坂中正義　2013　神（大切にしていること）は細部に宿る（かも）　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 56-57.
8. 杉浦崇仁・村山正治・上薗俊和・白井祐浩・木村太一・樋渡孝徳・相原 誠・渡辺 元　2013　精神科デイケアにおけるPCAグループの試み　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 180.
9. 高橋紀子　2013　手放すと動き出すもの見えてくるもの　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 57.
10. 高橋紀子　2013　ファシリテーション研修会におけるオーガナイザーの役割―理論的背景、実践領域の違うファシリテーターの集まる場作りの試み―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 86-87.
11. 徳永淑乃　2013　児童福祉施設職員のPCAグループ体験に関する一考察―ストレスに対する効果の視点から―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 148-149.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2012）
「第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．平河内健治　1993　信川先生とのワークショップ　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 38-41.
2．松浦光和　2012　Basic Encounter Group経験の効果についての実証的な研究　宮城学院女子大学研究論文集, 114, 1-7.
3．松浦光和・坂原　明　2012　Basic Encounter Group参加者の所感の分類　宮城学院女子大学研究論文集, 114, 9-24.
4．押江 隆　2012　日本の学校臨床におけるエンカウンター・グループの文献的展望　山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 34, 97-106.

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング

「第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じらているものを収録した。

2013年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は1本であった。「B.研究論文」は47本であった。「C.学会発表」は24本であった。そのうち2つがシンポジウムであった。「D.翻訳」は3本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は1本であった。

2013年における「体験過程療法・フォーカシング」の特徴は、フォーカシングのワーク集であるA-1、Omidian氏の講演抄録（C-15）、世界のフォーカシングシリーズ（D-1、D-3）が刊行されたことであろう。

A-1は、だれでも取り組みやすいフォーカシングのワークを中心に紹介している。このようなワークから、副題にある「コミュニティが元気になる」ことをねがって出版されたものである。どのワークも実施する側、される側からみても非常に取り組みやすい、非常に参考になる1冊である。

C-15は、「コミュニティ・ウェルネス・フォーカシング」の創始者の一人であるOmidian氏の日本人間性心理学会第32回大会での基調講演の抄録である。氏の展開してきた「フォーカシング」と、コミュニティや個人がもつ「レジリエンス」を軸にしたコミュニティアプローチを知る貴重な文献である。

A-1、C-15いずれもコミュニティがキーワードである。日本人間性心理学会第32回大会が「コミュニティを元気にする！」テーマが開催されたこともあり、2013年のこの分野の大きな特徴は「コミュニティ」といえよう。

D-1、D-3は、The Focuser's Focusで連載が始まった世界のフォーカシングシリーズに関わる文献である。D-1ではスイスが、D-3では中国が取り上げられている。今後も様々な国が取り上げられるであろうことから、各国でのフォーカシングの展開を知ることができる有意義な企画といえよう。

なお、2013年は「人間性心理学研究」に２本（B-4, B-45）、「パーソナリティ研究」に１本（B-28）、関連文献が掲載されている。「体験過程療法・フォーカシング」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに掲載されている。

A.書籍

1. 村山正治監修 日笠摩子・堀尾直美・小坂淑子・高瀬健一編　2013　フォーカシングはみんなのもの―コミュニティが元気になる31の方法―　創元社
   - 第１章　しっかりとここにいる
   - 第２章　表現
   - 第３章　ひととのかかわり
   - 第４章　いろんなことにフォーカシング

第５章　実践：人生のそれぞれの場面で

第６章　フォーカシングを世界に生かす―コミュニティが元気になるために―

B.研究論文

1．天海道子　2013　雷雨！後“アマテラス”　The Focuser's Focus, 16(3), 4.

2．荒井祐己　2013　フォーカサーの集い in 札幌の感想　The Focuser's Focus, 15(4), 6.

3．橋本 薫　2013　優しく温かく見守られて…　The Focuser's Focus, 16(3), 5.

4．日笠摩子　2013　状況の中で生きている身体―ジェンドリンの考えに学ぶ―　人間性心理学研究, 30(1), 3-11

5．兵頭孝子　2013　ワークショップ「フォーカシング」を担当して　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 69, 20-21.

6．池見 陽　2013　村上春樹の小説にみる「フォーカシング」の心理学　The Focuser's Focus, 16(3), 8-10.

7．今井雅巳　2013 「年に一度のインタラクティブ・フォーカシング・ワークショップ」に参加して　The Focuser's Focus, 16(3), 16.

8．石井栄子　2013　コミュニティー・ウェルネスの活動家 パトリシア・オミディアンのこと　The Focuser's Focus, 15(4), 25-26.

9．石井栄子　2013　シャーリー・ターコットの「フォーカシング指向トラウマワーク」に参加して　The Focuser's Focus, 15(4), 26-27.

10. 石井栄子　2013　優しい安心感の中でのひと時　The Focuser's Focus, 16(3), 4.

11. 伊藤三枝子　2013　インタラクティブ・フォーカシング・セミナー　The Focuser's Focus, 15(4), 9-10.

12. 泉屋昌平　2013　札幌の「集い」に参加して　The Focuser's Focus, 15(4), 6-7.

13. 加藤敬介　2013　池見先生の出店「私のフォーカシング指向心理療法論」に参加した感想『“理解”という言葉を再認識』　The Focuser's Focus, 15(4), 3-5.

14. 木村久美　2013　子どもとフォーカシングに参加して　The Focuser's Focus, 16(3), 12-13.

15. 小林寿美子　2013 「集い in 戸隠」のパワー　The Focuser's Focus, 16(3), 6-7.

16. 久保小夜　2013　フォーカシングプロジェクト高崎G　The Focuser's Focus, 16(3), 7-8.

17. 久羽 康　2013　ひとりの、たくさんの、人の前に、自分としてある―インタラクティブ・ワークショップに参加して　The Focuser's Focus, 15(4), 11.

18. 前田満寿美　2013 「インタラクティブ・フォーカシング」で共感の力をしみじみと味わってみませんか？　The Focuser's Focus, 16(2), 6-7.

19. 松村太郎　2013 「第9回JCFA 子どもとフォーカシングワークショップ in 京都」を終えて　The Focuser's Focus, 16(3), 11-12.

20. 宮川睦子　2013　ありがとう！戸隠へ　The Focuser's Focus, 16(3), 5-6.

21. 望月秋一　2013 「トラウマの癒し」と「緑の瞑想」についての観想　The Focuser's Fo-cus, 16(3), 6.
22. 森田絹代　2013　4人のコラボに参加して　The Focuser's Focus, 16(3), 16.
23. 村里忠之　2013　TAEとは何か？（TAEトフォーカシング）　The Focuser's Focus, 16(1), 5-7.
24. 仁田公子　2013　戸隠不思議曼荼羅　The Focuser's Focus, 16(3), 5.
25. 野村昌世　2013　枠に任せるということ　The Focuser's Focus, 16(3), 15-16.
26. 大澤美枝子　2013　感謝をこめて～「フォーカサーの集い 2013 in 戸隠」準備メンバーからのひとこと～　The Focuser's Focus, 16(3), 4.
27. 大竹直子　2013　フォーカシング的に仕事をする　The Focuser's Focus, 16(3), 5.
28. 酒井久実代　2013　日常生活の中で生じるフォーカシング・プロセスによる感情制御と人生満足度との関連―感情プロセス認識尺度第2版による検討―　パーソナリティ研究, 22(1), 80-83.
29. 笹田晃子　2013　赤ちゃんとフォーカシング　The Focuser's Focus, 16(1), 9-10.
30. 篠原扶志子　2013　フォーカサーの集い in 札幌を終えて　The Focuser's Focus, 15(4), 5-6.
31. 白土准子　2013　グループで活用：「全体フォーカシング」&「気分 体調座標」 The Focuser's Focus, 16(1), 7-8.
32. 須貝由紀　2013　戸隠の山々に包まれて　The Focuser's Focus, 16(3), 5.
33. 杉尾綾乃　2013　インタラクティブ・F・セミナー　The Focuser's Focus, 15(4), 10-11.
34. 高須賀忠雄　2013 「年に一度のインタラクティブ・フォーカシング」のWS参加者の感想　The Focuser's Focus, 16(3), 14-15.
35. 田村隆一　2013　日本フォーカシング協会会長挨拶　The Focuser's Focus, 16(1), 2.
36. 徳田育子　2013　子どもとフォーカシングに参加して　The Focuser's Focus, 16(3), 13-14.
37. 遠山由香梨　2013　子どもとフォーカシングに参加して　The Focuser's Focus, 16(3), 13.
38. 塚本晶子　2013　初めてのインタラクティブ・フォーカシング　The Focuser's Focus, 16(3), 15.
39. 上村英生　2013　札幌・北大での集いの感想　The Focuser's Focus, 15(4), 7.
40. 渡辺明日香　2013　＜ムーブメントからの気づき＞を出店して　The Focuser's Focus, 15(4), 5.
41. 渡辺 昭　2013　子どもとフォーカシングに参加して　The Focuser's Focus, 16(3), 12.
42. 山田絵理香　2013　次へ（宇宙はいつもそこに在る）　The Focuser's Focus,

16(3), 6.
43. 山本美保　2013　コミュニティー・ウェルネス・フォーカシングとの出会い　The Focuser's Focus, 15(4), 25.
44. 山岡洋子　2013　子どもとフォーカシングに参加して　The Focuser's Focus, 16(3), 14.
45. 山﨑 暁　2013　臨床心理面接で生じるセラピストの体験の理解と活用　人間性心理学研究, 30(1･2), 53-64.
46. 矢野キエ　2013　子どもとフォーカシング国際会議に参加して　The Focuser's Focus, 15(4), 8-9.
47. 米倉康江　2013　感想―フォーカサーの集い in 札幌に参加して―　The Focuser's Focus, 15(4), 7-8.

C.学会発表

1．阿部利恵　2013　危機支援とセラピストフォーカシング　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 51.
2．土井晶子　2013　フォーカシングから見たマインドフルネス　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 46-47.
3．土井晶子･本山智敬　2013　対人援助職に「元気」を取り戻す試み―「マニュアル化できない」PCA的かかわりのポイント―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 142-143.
4．平野智子・越川陽介・岩井佳那・中井美彩子・角 隆司・青木　剛　2013　セラピスト・フォーカシングを用いたセルフ・ヘルプ・グループの試み　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 98-99.
5．星加博之　2013　イメージによる5ステップフォーカシング　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 132-133.
6．石井栄子・小山孝子　2013　フォーカシングを取り入れた親向け講座の試行と効果　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 74-75.
7．伊藤三枝子　2013　セラピストフォーカシングのフォーカサー体験から…福島の震災支援に関わって…　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 50.
8．春日作太郎　2013　役割演技・フォーカシング・自己観察による大学生の自助活動に関する効力感の向上―学生同士の表現活動の運営に対するSV―　日本カウンセリング学会第46回大会プログラム, 37.
9．河﨑俊博　2013　相互リフレキシブな様式とリスニング　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 72-73.
10. 前出経弥　2013　漢字表現グループの試みとその意義―グループによる漢字フォーカシングと付箋を用いることの意味―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 158-159.

11. 宮田周平　2013　描画によるclearing a spaceの心療内科患者への適応　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 173.
12. 中村博之　2013　子どもの吃音で来談した母親面接の事例―支持的アプローチと自己洞察の促進について―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 112-113.
13. 日本人間性心理学会（第32回）　2013　自主企画：ハコミセラピーにおけるマインドフルネス―身体性およびフェルトセンスを通して考える―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 46-47.
    企画者（小室弘毅）
    話題提供者（小室弘毅・土井晶子）
    指定討論者（高野雅司）
14. 日本人間性心理学会（第32回）　2013　自主企画：危機状況におけるセラピストフォーカシングの可能性　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 50-51.
    企画者（阿部利恵）
    話題提供者（伊藤三枝子・高橋寛子）
    指定討論者（吉良安之・濱野清志）
15. Omidian, P.（日笠摩子訳）　2013　コミュニティの健康のためのフォーカシングと回復力～内側からコミュニティを元気にする　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 36-37.
16. 大迫久美恵　2013　フォーカシング指向解離理解についての一考察―Thinking At the Edgeの実践からみえてきたもの―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 108-109.
17. 岡村心平　2013　なぞかけフォーカシングの実際　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 130-131.
18. 澤木秀介・押岡大覚　2013　自己臭恐怖に対する体験モデルを指向した心理面接―登校困難に陥った女子高校生の事例―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 144-145.
19. 高橋寛子　2013　セラピストの危機状況とセラピストフォーカシングによる変容プロセス　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 50-51.
20. 土江正司　2013　『縁起』の体験的理解を可能にするフォーカシング　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 33.
21. 土江正司　2013　甘え療法の考え方と手法について　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 164.
22. 筒井亮太・菅村玄二　2013　マインドフルネスとフォーカシング及びナラティヴの関連性　日本心理学会第77回大会プログラム, 96.
23. 矢野キエ　2013　暗在がどのように言葉になっていくか―カンバゼーション・コラージュワークにおける関わりの可能性―　日本人間性心理学会第32回大

会プログラム・発表論文集, 64-65.

24. 米満和哉　2013　初心者向けフォーカシングにおけるボディワークの効果～プレゼンスの観点から～　日本カウンセリング学会第46回大会プログラム, 50.

D.翻訳

1．Geiser, C., & Moor, E.（堀尾直美訳）2013　シリーズ：世界のフォーカシング(2）スイスにおけるフォーカシング―歴史と発展　The Focuser's Focus, 16(2), 8-9.

2．Omidian, P.（石井栄子・大澤美枝子訳）2013　日本のフォーカシング・ワークショップでの私の体験（2013年8月と9月）　The Focuser's Focus, 16(3), 17-19.

3．徐 鈞（李 明訳）2013　シリーズ：世界のフォーカシング(1）中国におけるフォーカシングの歴史　The Focuser's Focus, 16(1), 11-12.

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

1．山田絵理香　2013「村山正治監修 日笠摩子・堀尾直美・小坂淑子・高瀬健一編　2013 『フォーカシングはみんなのもの―コミュニティが元気になる31の方法―』創元社」The Focuser's Focus, 16(3), 17.

付：同リスト（～2012）
「第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．三村尚彦　2011　志向的含蓄と体験過程―フォーカシングという現象学―　関西哲学会年報アルケー, 60-74.

2．三村尚彦　2012　記述的分析的心理学と体験過程理論―ジェンドリンがディルタイから継承したもの―　ディルタイ研究, 23, 74-88.

3．村上博志　2012　グループ・フォーカシングのこれまでの展開と今後の展望について　九州大学総合臨床心理研究, 4, 111-117.

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

1．矢野キエ　2011 「小野京子　2011『癒しと成長の表現アートセラピー』岩崎学術出版社」 人間性心理学研究, 30(1･2), 69-70.

第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2013年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は3本であった。「C.学会発表」は12本であった。そのうち3つがシンポジウムであった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は2本であった。

2013年における「その他」の特徴は、宗教と人間性心理学の関わりを論じたB-3、コミュニティと人間性心理学の関わりのついて論じたC-8が刊行されたことであろう。

B-3は、日本人間性心理学会第30回大会シンポジウム「人間性心理学のこれからの方向性」をもとにした仏教と人間性心理学の関わりについて真宗カウンセリングを軸に論じたものである。その中で共感や受容についても検討されている。

C-8は、人間性心理学会第32回大会シンポジウムの抄録である。コミュニティへのサポートという視点からパーソンセンタード・アプローチやフォーカシングが貢献できることが検討されている。

代表としてここで紹介した文献に限らず、2013年のこの分野の特徴は「仏教」と「コミュニティ」といえよう。これは、人間性心理学会第32回大会の影響が大きい。主催校である大正大学は仏教系の大学であり、大会のテーマが「コミュニティを元気にする！」であることから、これらを意識したシンポジウムや発表が展開されていた。

なお、2013年は「人間性心理学研究」に関連文献が2本（B-2, B-3）掲載されている。

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1．傳田容示子　2013　サマーキャンプ　セルフ《自立》カウンセリング研究所所報「白樺」, 69, 10-11.

2．大島利伸　2013　学校教育と人間性心理学の関わり　人間性心理学研究, 30(1･2), 3-9.

3．坂井祐円　2013　宗教と人間性心理学との関わり　人間性心理学研究, 30(1･2), 19-26.

C.学会発表

1．濱中寛之・小野京子　2013　精神科領域における表現アートセラピーのエクササイズ研究　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 128-129.

2．井出智博　2013　児童養護施設における“機能する事例検討会”の創造―PCAGIPを用いた取り組み―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 162.

3．金子周平　2013　パーソンセンタード・アプローチによる教師へのアサーション研修の効果　日本心理臨床学会第32回秋季大会プログラム, 70.

4．望月洋介　2013　若手心理臨床家の事例検討法としてのPCAGIPの効果検討　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 88-89.

5．村田 進　2013　禅マンダラ画枠づけ創作体験法の開発について　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 136-137.

6．村山正治　2013　コミュニティを元気にする　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 43.

7．日本人間性心理学会（第32回大会）　2013　シンポジウム：仏教と心理学が学びあう　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 30-34.
　司会者（佐藤隆一）
　シンポジスト（廣澤隆之・藤田一照・土江正司・越川房子）

8．日本人間性心理学会（第32回大会）　2013　シンポジウム：コミュニティを元気にするために何ができるか　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 30-34.
　司会者（中田行重）
　シンポジスト（パトリシア オミディアン・成井香苗・大河内秀人・進藤義夫・押江 隆）
　指定討論者（村山正治）

9．日本人間性心理学会（第32回）　2013　自主企画：仏法を基底としたパーソ

ンセンタード・アプローチを体験する　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 60-61.
　企画者・話題提供者（山下和夫）

10. 押江 隆　2013　コミュニティとともに生きていくということ　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 42.
11. 押江 隆・足立芙美　2013　学校に困難を抱えた子どもの居場所活動に関する研究（Ⅰ）―心理臨床家の子どもとの関わりに着目して―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 120-121.
12. 湯本幸平　2013　市役所職員を対象としたグループアプローチの実践報告―PCAGIP法で育てる“元気の芽”―　日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 112-113.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

1. 土沼雅子　2013「村山正治・中田行重編　2012『新しい事例検討法PCAGIP入門―パーソン・センタード・アプローチの視点から―』創元社」人間性心理学研究, 30(1), 105-106.
2. 矢野キエ　2013「小野京子　2011『癒しと成長の表現アートセラピー』岩崎学術出版社」人間性心理学研究, 30(1･2), 69-70.

付：同リスト（～2012）「第Ⅳ部：その他」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1. 原田義弘　2003　教育とカウンセリング（1）　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 20, 89-94.
2. 平野 正　1993　あんた､どこにいなさった　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 47-48.
3. 菊池美智子　2009　地域精神科看護とカウンセリングの統合」を目指して　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 34-39.

4．工藤和仁　1993　ああ！ 信川 実先生!!　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 57-60.
5．壬生儀幸　1993　信川先生の「自発共同学習」と私　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 54-56･64.
6．壬生儀幸　2003　カウンセリングで身につけたものを生かして―教頭として何ができるのか―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 20, 28-31.
7．小田桐真理　1993　木魂している言葉　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 49-53.
8．大沢 博　1993　信川先生から学びつづける　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 61-64.
9．斎藤幸子　1993　信川先生のお言葉　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 45-46
10. 斎藤和枝・佐々木いずみ・若生道子　1993　ヘルメット姿の信川先生　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 42-44.
11. 佐世省吾　2009　死生観―安心して生きよう―　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 44-45.
12. 宍戸博行　1993 「信川先生」へ伝えたいこと　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 12, 44-45.
13. 田中真由美　2009 「母と子の対話記録」を通じて思ったこと　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 22-29.
14. 山本伊知郎　2009　自発共同学習で学ぶ　日本カウンセリングセンター「カウンセリング研究」, 24, 46-51.

C.学会発表

1．田端健人　2012　教育関係における他者の受容：マルティン・ブーバーによるカール・ロジャーズ批判から　日本教育学会大會研究発表要項 71, 274-275.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

統計

2013年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にtableに示した。2013年に公刊された関連文献は86篇（「来談者中心療法」22篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」7篇、「体験過程療法・フォーカシング」52篇、「その他」5篇）であった[3]。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は7130篇（「来談者中心療法」3230篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1749篇、「体験過程療法・フォーカシング」1849篇、「その他」302篇）となった。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者まで御連絡願えれば幸いである。

連絡先　〒466-8673　愛知県 名古屋市昭和区山里町18
南山大学 人文学部　坂中正義
E-mail: sakanaka@nanzan-u.ac.jp
Fax: 052-832-3110（ダイヤルイン）3562

[3] 学会発表は合計に含まれていない。

table　日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する発行文献数（2014.02.10現在）

		50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	2010	2011	2012	2013	合計
来談者中心療法	書籍：単行本	2	**7**	**13**	**35**	14	15	13	9	20	15	8	14	2	1	0	0	168
（含：基礎概念）	書籍：章	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	52	35	0	4	30	0	552
	論文：特集	0	0	0	1	2	9	19	15	3	9	13	14	2	1	2	0	90
遊戯療法も含む	論文：一般	0	5	91	68	67	114	149	229	186	274	346	261	54	45	69	18	1976
	翻訳：単行本	1	3	3	8	5	1	3	4	1	0	10	12	2	0	1	1	55
	翻訳：章	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	0	2	2	0	254
	海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	0	0	0	1	12
	書評	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	4	1	7	2	123
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*1*	*1*	*3*	*8*	9	*1*	*2*	*2*	*4*	*31*
	参考：発表：一般	*0*	*5*	*28*	*19*	*9*	*16*	*2*	*4*	*18*	*21*	*38*	27	*3*	*7*	*7*	*8*	*212*
合計（学会発表は除く）		6	20	158	247	138	190	249	288	334	444	503	402	64	54	111	22	3230
ベーシック・エンカウンター・グループ	書籍：単行本	0	**1**	0	**1**	0	1	2	1	4	3	2	4	1	2	1	0	23
（含：グループカウンセリング）	書籍：章	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	0	0	10	0	143
	論文：特集	0	0	0	0	0	3	0	1	8	1	4	2	0	0	0	0	19
	論文：一般	0	0	3	0	37	121	247	206	283	154	216	142	45	21	14	7	1496
	翻訳：単行本	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0	14
	翻訳：章	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	0	0	0	0	14
	海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	書評	0	0	0	0	2	0	1	2	13	3	6	7	0	3	1	0	38
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*2*	*2*	*1*	*3*	6	*0*	*0*	*1*	*1*	*16*
	参考：発表：一般	*0*	*0*	*1*	*0*	*28*	*40*	*44*	*54*	*42*	*29*	*45*	55	*10*	*7*	*4*	*10*	*369*
合計（学会発表は除く）		0	1	4	2	46	149	270	226	339	194	247	166	46	26	26	7	1749
体験過程療法	書籍：単行本	0	0	0	1	0	0	2	0	2	8	6	8	2	0	0	1	30
フォーカシング	書籍：章	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	0	1	21	0	117
（含：体験過程の基礎概念）	論文：特集	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	21	1	0	1	0	32
	論文：一般	0	0	0	0	1	24	65	98	130	189	396	342	56	81	83	47	1512
	翻訳：単行本	0	0	0	0	0	0	1	1	1	5	5	8	1	0	0	0	22
	翻訳：章	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	5	0	1	3	3	50
	海外文献紹介	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	0	0	2	0	8
	書評	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	8	5	1	1	78
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*3*	*3*	*6*	6	*3*	*2*	*3*	*2*	*28*
	参考：発表：一般	*0*	*0*	*0*	*0*	*5*	*11*	*28*	*41*	*41*	*44*	*60*	139	*30*	*22*	*16*	*22*	*459*
合計（学会発表は除く）		0	0	2	7	6	37	80	115	158	264	456	405	68	88	111	52	1849
その他	書籍：単行本	0	0	0	4	2	2	0	0	1	0	1	5	1	1	3	0	20
（教育・経営など）	書籍：章	0	0	0	2	0	0	2	0	5	6	3	1	0	0	11	0	30
	論文：特集	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	論文：一般	0	0	4	1	6	13	19	10	25	10	44	35	24	11	4	3	209
	翻訳：単行本	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	3	1	0	0	1	0	11
	翻訳：章	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	0	0	0	0	16
	海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書評	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	2	0	1	1	2	13
	参考：発表：シンポ	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	*0*	3	*2*	*1*	*0*	*3*	*9*
	参考：発表：一般	*0*	*0*	*0*	*6*	*0*	*4*	*0*	*1*	*3*	*1*	*16*	1	*4*	*6*	*3*	*9*	*54*
合計（学会発表は除く）		0	0	4	13	10	15	26	12	32	16	65	44	26	13	21	5	302
総計		6	21	168	269	200	391	625	641	863	918	1271	1017	204	181	269	86	7130

注）データは坂中による一連の「日本における『来談者中心療法』及び『体験過程療法』に関する文献リスト」シリーズによった。表中太字は全集を示す。